

科目名	成人看護学実習Ⅱ (慢性・緩和) Adult Nursing Practice II		担当教員 (研究室番号)	大川 明子 (305) 他		教員への連絡方法 (メールアドレス)	akiko.okawa@mcn.ac.jp					
履修年次	3年次 後期	科目 区分	専門科目・生涯看護学		選択 区分	必修	単位数 (時間)	2(60)	授業 形態	実習	科目等 履修生	否
科目 目的	人間の生涯における成人期の特徴を踏まえ、慢性の病いとともに生きる人、緩和ケアを必要とする人と家族を全人的に理解できる姿勢を学び、その人が自分らしく生きることができるよう支援するための看護実践能力を養う。											
ディプロマ・ ポリシー (DP)	主要なDP	H 人々の健康に関する課題の解決に向けて、安心・安全・安楽・自立を基本とした看護を実践する技能を身に付けている。(技能・表現)										
	関連する DP	F 人々の健康的な生活を支援するために、必要な情報を様々な方法により収集する技能を身に付けている。(技能・表現) G 身につけた知識を基盤に、収集した情報を科学的・論理的に分析し、人々の健康に関する課題を把握する能力を身に付けている。(思考・判断)										
到達 目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>慢性の病いとともに生活する人あるいは緩和ケアを必要とする人を全人的に理解することを学ぶ。</li> <li>病いとともに生活する人の家族を理解することを学ぶ。</li> <li>慢性の病いとともに生活する人あるいは緩和ケアを必要とする人とその家族の個性を重視した看護過程を展開する。</li> <li>チーム医療における特徴を理解し、看護師の役割および医療・福祉チームにおける協働について学ぶ。</li> <li>慢性の病いとともに生活する人または緩和ケアを必要とする人とその家族に対する看護を通して、看護の専門性を探求する学習者として自己洞察をし、今後の自己の課題を明確にする。</li> </ol>											
成績評価方法 (基準)	実習内容、自己学習、受け持ち患者記録、出席状況により目標到達度を点数化し評価する。											
再試験の有無と 基準等	「実習の出欠および追実習に関する取扱要領」の第4条の記載される理由による1/4以上を超える欠席の場合に、追実習を認めることがある。											
教科書	特に指定しない。											
参考書等	特に指定しない。											
学生の主体性を伸ばす ための教育方法と 学生への期待	自己学習をしっかりと行って、看護を実践する者として必要な態度で実習に臨んでください。実習を通して患者や家族とのかかわりや看護師による看護の実際を見聞きすることによって、皆さん自身が悩んだり頑張ったりする中で、教科書や学内の講義・演習では学べないことが、実感として身につくと同時に、多くの充実感や達成感が得られることを期待します。											
備考												
学 習 内 容												
実習期間	2週間											
内容と方法	慢性の病いとともに生きる人、緩和ケアを必要とする人など1名以上を受け持ち、看護過程を展開する。 慢性の病いとともに生きる人や緩和ケアを必要とする人およびその家族に対して実施した看護の評価を行い、一連の看護活動を通して看護のあり方を学ぶ。											
実習場所	三重県立総合医療センター 鈴鹿中央総合病院 松阪市民病院											
	* 「実習要項」 参照											

## 学 習 課 題

--

## 実務経験を活かした教育の取組

- ・担当教員全員は、看護職として実務経験がある。看護の実践及び教育・研究活動を行っており、その経験を活かして本授業の講義及び演習を行う。
- ・行政機関や学校等において保健師や養護教諭として実務に携わった教員が指導する。また、実習施設では実務指導者から指導を受ける。